資料

令和元年度　唐津市立厳木中学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
主体的、協働的に取り組む生徒の育成	①環境を整え、生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を展開し、学習意欲を高める。 ②生徒に居場所と活躍の場をつくり、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。 ③「立腰教育」を柱として生活規律を確立し、自己指導力と規範意識を高める。

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①環境を整え、生徒が主体的・対話的に学ぶ授業を展開し、学習意欲を高める。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・研究授業を通した指導力向上	・全員による研究授業の実践を通して指導法改善と工夫を図る。	・生徒への効果的で充実した学習指導を行うために、同僚への指導・助言を通して組織として指導力向上を図る。 ・校内外における職員研修で教職員の授業力を高める。	A	・「授業の視点」「UDの視点」をもった指導案作成と「研究授業チェックシート」を使い、指導法改善に取り組めた。	・「研究授業チェックシート」の項目に、生徒が「何を身に付け、どう使うか。」を追加し、活用の授業について授業者の指導法改善への意識を高める。 ・各教科で活用の授業内容を明確に示し、年間指導計画に活用の授業を計画し、実践する。
教育活動	● 志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・ ふるさと探訪や職場体験、地元企業訪問等の郷土学習を通して郷土を愛し将来の目標に向かって努力する生徒を全校の8割以上にする。	・ 総合的な学習を中心に全ての教科や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・各学年の総合的な学習の時間において、郷土学習を取り入れることで、ほとんどの生徒が郷土について親しみと誇りを持ち、将来の目標について考えた。	・職場体験学習において、さらに新しい業種や企業に協力して頂き、地元でどのような経済活動が行われているかをより深く知る機会を増やす。さらに進路を見据え日々の学習に取り組ませる。
教育活動	●学力の向上	・話し合い活動を計画的に仕組み、自分の考えを書く力の向上 ・基礎・基本的な学習内容の定着と思考力・判断力の向上	・「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思わない」生徒を3割以上にする。 ・家庭学習時間1時間以上の生徒を7割以上にする。	・教科等の年間指導計画の見直しを行い、話し合い活動と自分の考えを書く活動を計画的に取り組む。 ・宿題の量を教科間で調整し、内容を基礎・基本的な内容を中心に出す。	A	・「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思わない」生徒を3割以上達成できた。 ・家庭学習時間1時間以上の生徒を7割以上達成できた。しかし，個人差がある。	・教科等の年間指導計画に必ず活用の授業を計画する。 ・家庭学習の質を高めるために，例示や積極的な自学ノートの取組をうながしていく。
教育活動	○ユニバーサルデザイン教育	・組織的な取り組み（研究）の推進 ・ユニバーサルデザイン教育の充実	各部会の部会長を中心にテーマに向けて組織的な取り組みを深化させる。	・校内研のテーマに向けて年間計画で立てた各部会の取り組みを部会長を中心に組織的に行う。	B	・県の指定を受けた昨年に講習等を集中して行い、本年度は講演・講習がなかったが、中2、中3には継続した取組と意識化が図れた。その反面で、中1には意識が十分図れなかった。	UD(特別支援)部を中心にUD教育の趣旨を踏まえた取組を組織的に次年度は継続して推進していく。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・衛生管理の改善・充実	・協働意識を高め、時間外勤務60時間が3カ月以上続く教職員を0とする。	・現状把握と対策の検討、働き方改革の周知を行う。 ・タイムマネジメントを行うとともに、定時退勤日の設定・実施を行い、教職員の心身の活力を保つ。	A	・「業務の効率化を推進し、時間外勤務が月60時間以下になるように取り組んでいる」とすべての教職員がアンケートで回答し、業務記録がそれを裏付けていた。（目標達成）	・今年度の取り組みが効果を上げたので、教職員が入れ替わっても今後も継続していく。 ・効率的な仕事の仕方についての意識を高め、タイムマネジメントを推進する。

②生徒に居場所と活躍の場をつくり、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	●いじめの問題への対応	・生徒の人間関係の改善	・道徳、教育活動全般を通して「人権教育」の充実を図る。 ・いじめの早期発見を念頭におき、教職員間の連絡、協力体制を密にし、迅速な対応をする。	・毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施し早期発見に努める。 ・6月と11月に担任との教育相談週間を実施し、学校生活や家庭での様子・進路に関して等生徒の実態把握に努め、いじめ・悩み等の問題の早期発見、早期解決を行う。 ・生徒会活動「人権宣言」、学級活動「他とのかかわり方（道徳）」についての取組を実施する。	B	・辛い思いをしている生徒が相談してきて、教員が連携を取り、早期解決することができた。 ・12%の生徒はあまりしていないという結果だったので来年度の課題である。	・全職員が1人1人に細かく目を配り、信頼を築くことで、誰もが相談しやすい環境を今以上に作っていく。
教育活動	○生徒会活動	・社会生活における規範意識を、生徒同士で高めあい、行動する生徒会	・自主的、創造的な行事の実践通じて、話し合い活動の活発化、自主的活動の促進を目指す。	①責任ある行動　一人一役 ②時間厳守　2分前行動 ③あいさつの徹底 ④連絡の徹底	A	・各種行事では、計画的、自主的に実践ができた。 ・生徒が活躍する場、承認する場面を増やして、より自己肯定感を高めていく必要がある。	・立案・計画においてPDCAを取り入れた実施を行う。 ・全校生徒が活躍できる場、承認する場面を増やせるよう、生徒集会、専門部会を充実させる。
教育活動	○キャリア教育の充実	・キャリア教育の推進	・目標とすべき将来の生き方や進路について考える。 ・進路や職業等に関する情報を収集し、活用する力をつける。	・2年時に職場体験学習と先輩に学ぶ会、3年時に生き方についての学習を実施する。 ・高校説明会、進路説明会などを通して、進学指導を行い、生徒に進学について目的意識を持たせる。	A	・進路に関する行事や各学年での進路学習を計画的に実施することができた。 ・8割の生徒が、進路学習を通して、自分の進路目標を持つことができた。	・各学年での実施計画や実施内容をしっかり引継ぎ、今年度同様、各行事等を実施する。

③「立腰教育」を柱として生活規律を確立し、自己指導力と規範意識を高める。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・立腰教育の推進	・何事に対しても積極的に取り組む生徒、自ら主体的に活動する生徒の育成を図る。	・自ら気づき、考え、判断するように声をかける。 ・承認する場面をたくさん作り、その場その場で称賛を行う。 ・きれいな校舎を継続できるように、掃除にも力を入れ、心を整えさせる。	B	・子ども達は100%全員が自ら積極的に活動できたとの結果であった。 ・保護者は立腰教育について33%があまり知らないとの結果であった。	・来年度は立腰について、再度意義から説明し直して、授業はもちろん、集会など様々なところから立腰教育を推進していく。
教育活動	○道徳教育	・道徳教育の推進	・「考え」「議論する」道徳授業の実施 ・道徳教育における家庭との連携を図る。	・学校行事に関連した資料の開発 ・心のものさしの活用 ・ローテーション道徳・TTによる道徳の実施 ・「ふれあい道徳」の実施 ・学級だよりによる道徳科の紹介	B	・9割弱の生徒が、意見交流を通して、自分の考えを広げることができたと答えている。 ・8割以上の保護者が、思いやりなどの道徳性を身に付けていると感じている。	・ネームカードや心のものさしなど、生徒の考えを視覚化する教具の活用 ・「ふれあい道徳」の実施と道徳科についての通信等による保護者への紹介
教育活動	●健康・体力つくり	・健康意識の向上と体力つくり ・食育の推進	・自己の体力の現状を知り、日頃の生活に生かしていく。 ・健康と安全、命の教育を充実させる。	・スポーツテストを実施する。 ・授業前に補強運動を実施する。 ・外部講師を活用した、性と命の講話、薬物乱用防止と防煙教室、一般救命講習会を実施する。	A	・8割以上の生徒が体力の向上や、食育の大切さを理解していた。ほとんどの生徒が健康について意識している。	・現状に満足せず、さらに健康について意識して、そして実践できる生徒を育てていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	○幼保小中高連携	・小中、中高連携を一層深め、指導の充実を図る ・地域との連携の強化	・生活や学習指導について共通した取組を行う。 ・地域と学校の協力関係を築く。	・授業参観・情報交換会を実施し、共通理解を深め共通実践を行う。 ・「いきいき学ぶからつっ子推進事業」と関連させ、地域の人々を有効活用する。	A	・今年度は新たな取り組みとして、小中合同で地域清掃に取り組んだ。また、情報交換したことを生徒理解・生徒指導に活かすことができた。 ・地域の方を講師とした「読み語り講座」や「魚さばき体験」について、「大変良かった」「役に立つ」と答えた生徒が9割を超えている。	・「幼小中高連携の学校教育で育てる」「地域の学校として地域とともに生徒を育てる」の視点を定めて、学校教育目標の実現を図る。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

全職員一丸となって学校教育目標の実現に向けて取り組むことができた。今年度は、校内研究の充実が功を奏し、昨年度と比べてかなり改善が図られ、学校評価アンケート（保護者・生徒・教員）からも好意的な評価をいただいている。次年度は、生徒指導の3機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）をふまえて、さらに教育活動のPDCAを推進し、向上を図りたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目